

広報



第2号

発行／江南市高屋町大松原137番地
江南厚生病院広報委員会
TEL0587-51-3333
発行責任者病院長／加藤幸男
ホームページ
http://www.jaaikosei.or.jp/konan

5月7日
外来診療開始



5月7日
水曜日に外
来診療を開
始しました。
入院診療、
救急診療に
ついては既
に5月1日
より始まっ
ています。この日は受付、会計
で待ち時間が発生しましたが、
システム等の大きなトラブルも
なく、無事終了しました。

入院患者搬送

平成20年5月1日に入院患者
搬送を行いました。当初、患者
搬送業者から「引越は楽しく」
と言われそれを合い言葉に看護



部事務局は取り組んできました。
5月1日が近づくにつれダイヤ
表が夢になるようになり引越う
つ病になるのではと心配しまし
た。2病院同時進行の搬送は多
少のトラブルがあったものの無
事に210名の患者を搬送する
ことができました。そして最後
の患者を送り無事に到着したと
連絡を受けたときの感動は今も
忘れられません。搬送に協力し
ていただいた皆様本当にありが
とうございました。

電子カルテ
システム導入



医療情報室長
朱宮光輝

江南厚生病院が導入した電子
カルテシステムをご紹介します。

電子カルテは、従来の紙カル
テに医師が記録してきた患者さ
んの訴え、医師による身体所見・
各種指示・診断、看護記録、検査
結果、画像情報、他の医療機関か
らの紹介状など、診療に必要な様々
な情報をコンピュータで統合管
理・記録するシステムです。

電子カルテの最大のメリット
として、情報の共有化が挙げら
れます。診療情報を総合管理・記
録することで、各部門に設置さ
れたパソコンから患者さんの診
療情報を参照でき、紙カルテに
比べ業務がスムーズに行えます
(紙カルテでは1冊のカルテを複
数部門で同時に参照できず、また、
紙カルテの保管場所まで出向か
ないと参照できないため、迅速
性に欠けます)。

また、患者さんへの症状の説
明において、電子カルテ上に検

査データや放射線
画像を表示するこ
とが可能となった
ことで、検査値の
推移を時系列表示やグラフ表示、
画像の濃淡を変化させて表示す
るなど患者さんと画面を見なが
らより分かり易く説明すること
ができます。

電子カルテを使用した診療が
順調に進み、一日も早く皆様に満
足いただけるよう、また患者さん
にとって最良の医療を提供でき
るよう全力を尽くしますので、温
かいご支援を心よりお願い申し
上げます。



がん早期発見に役立つ PET-CT



放射線科診断部部长
大竹正一郎



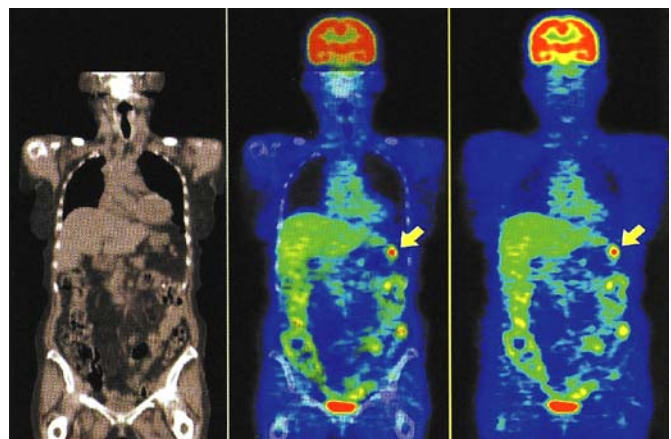
がんを早期に発見できるPET-CT（ペットCT）という画像診断装置を江南厚生病院は導入しました。これは21世紀になって実用化された最も新しい診断法です。この検査の方法や特徴を簡単に述べます。

まず静脈注射を一本打ちます。

この薬はFDGという名前で、ブドウ糖の一種なので副作用は全くありません。もし体内にがんがあったとします。がん細胞は増殖する力が大きいので、正常の細胞より大量のブドウ糖をエネルギー源として必要とします。そのため、注射したFDGという薬ががんに集まります。FDGからはわずかな放射線が出ますので、それをカメラで撮影してがんを発見します。検査時間は約2時間です。

がんは一つのがん細胞が増殖して大きくなります。1cmの大きさになるまでに約10〜20年かかります。従来の検査方法であるCTやMRIでは見つけることが難しい1cmのがんもPET-CTでは見つけることができます。100人の方が検査を受けると1・5人のがんが見つかると言われています。

しかし発見しやすいがんと、そうでないがんがあります。例えば肺がん、乳がん、食道がん、



大腸がんなどはPET-CTで発見しやすいのですが、胃がんや腎がんの発見は困難です。

FDGという特殊な薬を使うので検査費用はやや高価ですが、PET-CT検診は従来の検診に比べて約10倍のがん発見率があるといわれています。PET-CT検診で早期のがんを発見したいという方は、当院の健康管理センターまでお問い合わせをお願いします。

薬の話 シリーズ

①

安全な抗がん剤投与のための取り組み

薬剤科より



主任薬剤師 羽田勝彦

抗がん剤は通常の薬品に比べ強い作用を持ち、少しのミスが大きな事故につながる可能性がある。ある為病院として厳重な管理をしていく必要があります。

江南厚生病院では、電子カルテを導入し患者さんへのより安全な抗がん剤投与のための、コンピュータオーダーシステムを導入しています。

薬剤科においても、患者さんへの安全性が確保できるように業務の取り組みを行っておりますので以下に紹介します。

薬剤科では抗がん剤注射処方箋に対し、薬剤を取り揃える薬剤師、その取り揃えられた薬剤を監査する薬剤師、調製方法の計算入力をする薬剤師、その入力に対し計算ミス等がないかを監査する薬剤師と調製前に4人の薬剤師が関与しています。そして当日調製を行う際には、

調製者が事前に入力された調製方法に従って本当に正確な量を採取しているか、別の薬剤師が更に目で直接確認を行っております。

また調製時には安全キャビネットという特殊な装置を使用し、無菌操作法により安全で清潔な薬剤を提供しています。外来患者さんの抗がん剤点滴は外来化学療法センター内にある無菌調製室で、入院患者さんの抗がん剤点滴は病棟にあるサテライト薬局で行っております。



福祉の話 シリーズ

①

当院の回復期病棟・療養病棟について



地域医療福祉連携室長 野田智子

皆さんは「回復期リハビリテーション病棟（以下、回復期病棟）」、「医療保険型療養病棟（以下、療養病棟）」をご存知でしょうか。「回復期リハビリテーション病棟」は、脳血管疾患や手術後の回復期をリハビリテーション中心に過ごす病棟です。「療養病棟」は、病状は落ち着いたけれども、もう少し医学的な管理のもとで療養を希望する方が療養される病棟です。これらの病棟は、救急医療を必要とする入院患者さんで治療中心の状況から、リハビリや療養を中心とする状況へと変わった段階で、国の診療報酬上定められた要件を満たす方が入院できる病棟です。

その後の療養場所としてこのような病棟があります。このため、他の病院から「回復期病棟」や「療養病棟」に直接転院することを現時点では行っておりません。また、大腿骨頸部骨折の患者さんは、手術後10〜14日程度で、当院と連携する回復期病棟のある地域の病院へ転院していただいています。入院患者や手術数の多い救急医療からの流れの中で、いろいろとご理解をいただくことが多くありますが、地域住民の方にひきつづき病棟を変わっていただき、それぞれ目的に合わせた時間を過ごしていただくことができます。また、地域内の「回復期病棟」「療養病棟」のある病院への転院という連携も行っていますので、相談支援させていただきます。

ニュース

■ヘリコプター夜間離着陸訓練
5月12日(月)午後6時40分より江南厚生病院において、ヘリコプターの夜間離着陸訓練が行われました。

去る3月29日には、昼間の離着陸訓練を行いました。今回は夜間での災害を想定して訓練が行われました。
訓練は前回同様スムーズに行われました。



■花の日の慰問
6月3日(火) 江南幼稚園、



江南第二幼稚園の園児170名が花の日の慰問にみえ、療養中の患者さんに素敵な笑顔と元気な挨拶、歌声を届けてくれました。両幼稚園のご好意により恒例になっているものですが、園児からの励ましの言葉に続いてひとりひとりに花束が贈呈されると「うれしいねえ」、「かわいいねえ」と感激の涙が止まらない方が多数みえました。

■和みの庭 ホタル放流
6月19日(木) ホタル研究家の中山勝博さんのご好意にて、

和みの庭にヘイケホタルの幼虫300匹が放流されました。数週間後に夏の夜空に飛び交う姿がご覧になれる予定です。どうぞお楽しみに。



ご案内

■診療報酬改定のお知らせ
平成20年4月より、診療報酬が改定されました。

それに伴い、会計窓口での患者負担に変動が生じますのでご了承ください。

詳細については医事課までお尋ねください。

お願い

■肝疾患専門医療機関の指定
当院は厚生労働省健康局長通知「肝疾患診療体制の整備について」に基づき、平成20年5月1日付で肝疾患専門医療機関の指定を受けました。

■保険証の確認について

当院では毎月一度保険証の確認を行っています。外来受診の際は、各外来受付か新患受付へ、また、入院中は各スタッフステーションに保険証をご提示ください。なお、保険証・氏名・住所・電話番号等の変更がございましたら、新患受付か外来受付にお申し出くださるようお願いいたします。

編集後記

今月号より、新しい広報委員でスタートしました。

できるだけ身近な話題をお知らせし、みなさまに親しまれる病院にすることができたらと思います。